

四川省北西部に在る丹巴などの女王谷（ギャロン）と周辺、それにチベット東部に高い石積みの塔が多く残っています（写真1、2、3）。これらの高い石積みの塔の歴史は記録されておらず諸説有って、数千年の昔に南下して来た羌族が伝え各地に建てて行ったとする学説が当地で広まっていますが、遊牧民だった羌族が何故高度な建築技法を要する高い石の塔を谷間の其処彼処に建てられたのか、素朴で根本的な疑問が残ります。

女王谷の地に係る歴史書を見る限り、高い石の塔が最初に出て来るのは、女王谷（ギャロン）に住む人たちの祖先の地と言われる、隋書に記録されたチベット西部の女国や、唐書に記録された女王谷に当る東女国に出て来る「女王が住む9層の塔を持つ館（写真4）」です。この石材を僅かに内側に傾けながら高く頑丈に石を積む建築技法が移民によって女国から東女国へ伝えられ、更にギャロンチベット族の勢力が拡大した時に周辺へ伝えられたように見えます。この考え方は、チベット西部の女国から女王谷の東女国への移民経路だったとされるチベット東部のゴンブー地方に約1800年前に建てられた高い石積みの塔^注が残っている事からも裏付け



写真1

されます。

高い石積みの塔は頑丈に建てられてはいますが、地盤が弱くなったり地震のために傾いて崩れそうになり対応に苦慮しているケースも有ります。



写真2



写真3

同じ建築技法の高い石積みの塔は中央アジアでも見られます。またコーカサス地方グルジアのスワネティ(スワネッティ/スヴァネチ)地方にも建築技法が異なるものの高い石積みの塔が残っていて「過去数百回の侵略を守り抜いた石塔」、「狭隘



写真4 女王谷と周辺で唯一残る「女王が住む9層の塔を持つ館」を彷彿とさせる領主の館跡が丹巴にあります

な渓谷に多種多様な民族が集う」、「非常に気品のある美人が多い」との言われはギャロンの丹巴に通じる物があり、スワネッティアの美人に似た顔立ちの女性を丹巴で時々見掛けます。

注) 2008年、アメリカのBeta-Analytic Lab.の放射性炭素C¹⁴年代測定に因る(四川大学 Unicorn 文化遺産研究所、Frederique Darragon)。

●大川さんのホームページはこちら

<http://rgyalmorong.info/index.htm>

<http://rgyalmorong.info/scholaweb/conts.htm>

▶お知らせ：女王谷のHP

(<http://rgyalmorong.info/>)に、当地の風情を紹介するサンプルビデオ(MP4形式8MB前後)1分余り×15本を追加しました。日本語HPに入って頂いて、先頭頁の左下に有る、「風情のあるビデオ」でご覧になれます。

(<http://rgyalmorong.info/scholaweb/queenvideo.j.htm>)